

AST における臨床検査技師の取り組み

◎木下 和久¹⁾、田畑 泰弘¹⁾、文谷 美之¹⁾、池口 範子¹⁾、谷口 裕樹¹⁾
医療法人 育和会 育和会記念病院¹⁾

2016 年春、政府は薬剤耐性対策アクションプランを公表し、国として世界的な脅威となっている耐性菌感染症に積極的に取り組む姿勢を明確にした。そのうち項目に抗菌薬の適正使用が謳われており、耐性菌対策の重要な柱の一つになっている。そのなかで注目されている取り組みが抗菌薬適正使用支援（antimicrobial stewardship, AS）と呼ばれる取り組みである。当院では適正使用推進のために 2018 年 4 月に抗菌薬適正使用支援チーム（antimicrobial stewardship team, 以下 AST）を発足し、感染症内科医、看護師、薬剤師、臨床検査技師を中心に活動している。当院のような中規模病院の検査室や検査技師がどのような役割を果たしているのか活動内容を報告する。

当院は微生物検査を外部委託しており、検体採取と提出までの保存状態が適正であるようスタッフへの啓発を行い、委託先とは迅速に結果報告されるように連携し、当院のローカルデータとしてアンチバイオグラムの作成をしている。AST 活動の流れとしては、検査技師は無菌材料培養陽性患者症例をあげ、薬剤師は指定抗菌薬の投与患者症例をあげ

る、それらラウンド対象患者を毎週 2 回 AST メンバーが集合しカルテ回診を実施する。カルテ回診では様々な検査データと抗菌薬使用状況を踏まえ検討、必要な場合は治療へ介入し治療終了までのフォローアップを行う。

当院の AST は発足してまだ間もないが、今後抗菌薬適正使用推進の目的（患者予後の改善・耐性菌抑制・医療費軽減）に対して、どのような効果があるのかを検証していきたい。

育和会記念病院 TEL 06-6758-8000